

# しんせり

第 9 号



1995年5月

(財) 日本野鳥の会三重県支部

伊勢神宮の環境を示すものに五十鈴川がある。今の五十鈴川をみて、これが本当の川なのだろうかという議論をしている人たちに私は出会った。大変興味深かったので紹介してみたくなった。

まず、今の五十鈴川の様子を見てみよう。宇治橋附近は、両岸が大きな緑色岩のみだれ積石組で、裏側はコンクリートで固定され、水際が箱形になってよくみると、都市の城の堀のように単純化されている。

40年ほど前の五十鈴川は、水際にふぞろいな大小の石が重なったり、乱杭があったり、あるいは、川の流れの中に大きな転石が無造作に転がっていた。転石の周辺には砂州が発達し、岸の一部のえぐられた部分は、これを補修するようにネコヤナギが群生し、浸蝕をふせいでいた。岸から山手にかけての傾斜は、急だったり、緩かったり、ときには崖となって岩がむき出していた。そこにはサツキ等がへばりつくように自生し、環境に適した植物群落を構成していた。さらに、傾斜面には、たくましい姿のムクノキ、クマヤナギの落葉樹の高木が点在し、周辺にはヤマブキ、モミジの

幼樹もあった。常緑樹のクスやシイノキも姿を見せ、その樹下にはアオキが根元を覆っていた。幾度となく水害から難を逃れ、たくましく、枝か幹か判断しかねるような枝が、水面まで手をのばすように覆い、自分の姿を川面に映し出していた。木陰には、魚族が姿をみせ、それをねらって鳥がじっと様子をうかがっていた。その環境は小規模に多様な変化をし、いつまでみてもあきることがなかった。川は複雑な環境の集合体でなければいけない。言葉では表現ができないというのだ。

いま一つは、川は、川底が黒く流れは汚れていなければ川ではないと豪語する人たちであった。きっと、この人は溪谷を連想したのだろうと思うが、両極端のこの議論には注目したい。

環境の感覚が幼児体験で形成され、それが基本となるのならば、いまの子どもたちが大人に成長したときの河川改修はいったいどんな変化をするのだろうか。さらに環境は単純化するのではないだろうか。私たちはもっと自然との対話を大切にしなければならぬと痛感したこのごろである。

(すぎうら くにひこ、支部長)

目 次

今号の表紙

絵：今村 稔

特集1 支部総会開く ————— 2~7

パートウォッチング入門講座① ————— 8,11

探鳥地マップ① 伊坂ダム ————— 9~10

特集2 シロチドリを守ろう ————— 12~13

会員の投稿 ————— 14

探鳥会報告 野鳥情報 ————— 15~17

お知らせ・編集後記 ————— 18

コアジサシ *Sterna albifrons*

アジサシ類は、県内ではアジサシとこのコアジサシが見られます。アジサシ類の中では小型の部類に入り、カイツブリくらいの大きさです。黄色い嘴と黒い頭頂部の間に白い部分が見えたらコアジサシと思って間違いないでしょう。キリッ、キリーと鳴きながら繁殖地の中州などを飛び交い、時には水中にダイビングして採餌するのを見るのは初夏の探鳥の楽しみの一つです。

去る4月16日、三重県支部運営のためのもっとも大きな行事である、1995年度日本野鳥の会三重県支部総会が開催されました。総会の様子や、支部の様々な組織について特集でお知らせします。

## 1 総会報告

朝からあいにくの天候となり、楽しみにしていたバード・オリエンテーリングは中止になってしまいました。総会会場の、津市島崎町にある三重県勤労者福祉会館へ向かいましたが、心配していたとおり会員の集まりはあまりよくありません。隣でやっていた華道の流派の集まりに押され気味。それでも、元気の良さでは負けない林さんと吉居さんが受付にどっかと座り、参加者を受け入れていきます。何とかそれらしい人数となり、おおむね予定通りの時刻に開会となりました。

司会の今村さんが開会を宣言し、まずは支部長の挨拶です。その内容はこの号の巻頭言として寄稿していただきました。会員の皆さんはどう感じられたでしょうか。支部長は、この逸話を参考に、良識のある皆さんはどうすべきか判断してほしいとのことでした。

続いて、総会議長の選出に移り、支部規則第17条により、支部長が松阪の谷本さんを選出しました。

議長から、議事の円滑な進行についての協力を求める挨拶があり、続いて総会成立の宣言がされました。ここで、議事録署名人に奥井さん、藤本さんを選んで一連の開会行事は終了、議事に入りました。

### (1) 1994年度事業(活動)報告

#### ◇研究部◇

研究部からは、県からの委託による①シロチドリ生息状況・保護対策調査と②鳥獣保護区設定効果調査、及び③ガン・カモ調査を行ったとの報告がありました。

①は全数調査を繁殖期に3回、越冬期に4回、そして繁殖状況調査を15カ所で行ったものです。約25ページの報告書を300部印刷するという事です。

②は度会町と大内山村での調査で、約25ページ

の報告書を作成します。

③の調査箇所は76カ所となりました。

質疑の中で、②の報告書もコピーで配布できないかとの要望があり、希望者には実費負担で配布できることとなりました。

#### ◇運営事務局◇

1994年度の活動は77回の探鳥会を含め96件、のべ参加者1,359人。B5版で4ページにも上る活動が報告されました。

#### ◇保護部◇

保護部の報告は事情により、実際は決算報告の後で行われましたが、ここにまとめておきます。

①上野市久米川の改修工事について、度々県と交渉を持ったが成果はなかった。②河川災害復旧工事を近自然工法で行うよう要望書を県に出した。

これらについて、県との交渉経過が詳しく報告されました。ほかに、田中川河口の工事、伊勢湾埋立計画、コアジサシ繁殖地造成計画についても報告がありました。このうち、伊勢湾をこれ以上埋め立てないよう求める要望書について、実際に提出したのかという質疑がありましたが、まだ提出はしていないとの回答でした。

以上の事業(活動)報告は拍手で承認されました。

### 参加者の声

お天気がよくなかったせいか出席者の少なかったのが残念。場所も悪くはないでしょうでしょうかねえ。保護部長さんの行政の内幕話なんかとてもおもしろいのに。

来年の総会はみんな出ようよね!

(南勢地区の女性)

(2) 1994年度決算報告

財務部長から詳しい決算報告がされました。チョット難しいのですが、おおむね健全な財政状況のように思います。吉居さんが会計監査報告を行い、拍手で承認されました。

(3) 役員改選

支部規則により、役員の任期は2年と決まっています。今年は支部化以来初の役員改選となりました。役員は総会で選出する規則ですが、あらかじめ用意された案を支部長が提案し、拍手で承認されました。役員構成は次の通りです。

1995年度三重県支部役員構成

< 理事 >

- 杉浦 邦彦 (支部長、南勢)
- 高橋 松人 (副支部長、津)
- 市川 雄二 (副支部長、北勢)
- 木村 京子 (事務局長、北勢)
- 榎原 葵 (財務部長、北勢)
- 橋本 祐子 (企画部長、南勢)
- 世古 有司 (編集部長、南勢)
- 木村 裕之 (研究部長、北勢)
- 武田 恵正 (保護部長、伊賀)
- 濱中 勝彦 (北勢地区長)
- 加藤 征甫 (北勢)
- 高 和義 (北勢)
- 藤田 克三 (北勢)
- 前澤 昭彦 (伊賀地区長)
- 黒川 昌吉 (伊賀)
- 塗 矢 博一 (伊賀)
- 平井 正志 (津地区長)
- 谷本 津雄 (松阪地区長)
- 中村 洋子 (松阪)
- 宮田 たつ (松阪)
- 今村 楨 (南勢地区長)
- 西村 泉 (南勢)

< 監事 >

- 西村 幹和 (南勢)
- 林 淳子 (南勢)

(4) 1995年度事業(活動)計画

続いて、いよいよ各部により1995年度の活動計画が提案されました。

◇編集部◇

編集部からは支部報「しろちどり」と、今年度についてはその別冊の発行を行いたいとの提案がなされました。

◇企画部◇

年間100回を超える探鳥会を中心に、バラエティに富んだ活動が提案されました。橋本部長からは、「今日は、残念ながら濱田さん発案のパードオリエンテーリングは中止になりましたが、今年は探鳥会以外の活動も積極的に取り組んでいきたいので、多くの会員の参加を期待しています。」との呼びかけがありました。

◇保護部◇

昨年に引き続いて、上野市久米川の近自然工法による環境保全、田中川河口干潟の保護、伊勢湾の埋立問題に取り組んでいくとともに、中勢バイパスから石垣池の環境を守る活動、さらには長良川河口部におけるコアジサシ繁殖地造成計画の試みと多くの提案がされました。

最後のコアジサシの誘致実験については、その効果測定調査を受託する予定なので、コアジサシとシロチドリの識別のできる人(!)ならどなたでも参加してもらいたいとのことです。またこのことに関連して、最近(日本の)建設省の担当課長が名刺にコアジサシのイラストを刷り込むなど、着実にその意識が変わってきているので、地元の動きによっては国を動かせる可能性が出てきており、積極的な保護活動が望まれるとの訴えがありました。

今回の改選では3名の方が新たに役員となりました。一方、7名の方が役員を退かれましたが、いずれも旧三重野鳥の会の時代から長年役員として活躍された方々です。支部長が次の方々を改めて紹介し、全員の拍手でその労苦に感謝しました。今後も支部活動への変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願ひしたいと思います。

鹿島素子 桑山貞徳 中村 誠 濱田 稔 濱中明代 山中久次 吉居瑞穂 (敬称略)

◇研究部◇

今年の研究部の大きな事業は、県からの委託により行うカワウの生態調査です。各地区や会員の協力をお願いしますとのこと。また、恒例のガン・カモ調査も行いますが、今年度は新しい人に新しい場所を担当してもらいたいとの希望が述べられました。

ここで、支部長から保護活動について、「最近国の考え方も変わってきており、地元の声を聞きたいと建設省などは言っている。が、実際には松阪沖の大規模な埋立など多くの開発が計画されている。人間の生活を広い視野で見ると開発も必要だが、守れるところ最低限は守りたい。その為には声を出していきたい」と発言がありました。

活動計画は拍手で承認されました。

(5) 1995年度予算案

財務部から、資産の部159万2千余円、収入支出の部78万6千円の1995年度予算案が提案され、拍手で承認されました。

以上で議事は無事終了となり、議長が降壇しました。

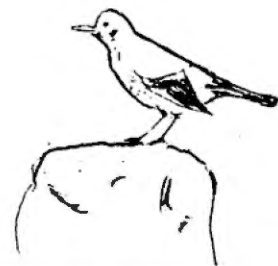
(6) その他

昨年、日本野鳥の会は創立60周年を迎えましたが、それを記念して会の発展に功労のあった方に感謝状が贈呈されました。三重県支部では杉浦支部長が選ばれ、その送達がありましたので、総会の席で高橋副支部長から支部長に感謝状の贈呈を行いました。

支部長は「この感謝状は三重県支部、役員や会員の全体に送られたもののご理解いただきたい。私はその代表として受け取りたいと思います。」とのご挨拶。

このあと、シロチドリ保護委員会の報告(特集2をご覧ください)や連絡事項などがあり、1時間半の総会は幕となりました。

総会の後は、会場に展示された他の支部の支部報や販売物を見たり、専門部や委員会に分かれてのミーティングを行い、この日の日程を終了しました。



新理事さんに聞く…… 「私の抱負」 ……張り切っています!

高 和義さん

日本野鳥の会に入ってから1年半になりますが、諸先輩に初歩から指導を受け、シーズンごとに訪れる野鳥を観察する楽しみが分かってきました。

この度、はからずも推薦を受け理事に就任することになりました。未だ駆け出しですが、一生懸命勉強して、当会の発展と自然保護に少しでも役立ちたいと思っていますので、何卒よろしくお願いします。



塗矢博一さん

私は5年前、この支部の前身である三重野鳥の会に入会しました。上野市に住んでいますので、主に伊賀地区内、例えば友生や真泥池で観察を楽しんでいます。

この度理事になった抱負としては、とにかく皆様のためになりたいということです。また、いろいろなことを勉強して、鳥の研究をしていきたいと考えています。私は先頭に立てる人間ではありませんので、前沢さんや武田さんはじめ諸先輩のご意見を拝聴して、支部活動推進のため頑張っ

ていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



藤田克三さん

今年度より理事ということになりました。野鳥を観察するとともに、野鳥や環境をよく理解・保護し社会にPRする活動をしたい。また、人間も同じ地球上に生きているのですから、野生動物等と共存共栄できる自然環境の実現のために活動したいと思います。ご協力よろしくお願いします。

◆財務部◆

支部の会員数は皆様のおかげで、95年3月31日現在、321名となり年間642千円の会費収入が見込まれるようになりました。また、支部長をはじめ事業部や研究部の活躍と皆様のご協力によって、県の事業委託費や販売益も上がって、94年度は黒字で決算することができました。

財務部が94年度の記帳として特記したいことは、県や町の委託事業4件、事業部、シロチドリ保護委員会等の会計を特別会計として帳簿を独立させたことです。これによって各事業毎の剰余、不足が算出でき、委託者に対しても収支報告が個別に行えることのほか、支部会計が特別会計に影響されることが少なくできたことです。

(部長 楢原 恭)

◆企画部◆

従来、会の活動は探鳥会の開催が多かったのですが、今後は自然保護団体としてのアピール活動や、リーダー育成活動の企画を増やしたいと考えています。

具体的には、バードウィークにテグス拾いキャンペーンや、密猟パトロールを行ったり、バードウォッチング案内人研修会や野鳥講座などを計画しています。

会員の積極的な参加を期待しています。

(部長 橋本祐子)

◆研究部◆

三重野鳥の会時代から、三重県の鳥であるシロチドリの県内の生息状況を調べてきました。まだまだ予断を許さない状況が続いていますので、今後も調査を行っていく予定です。

ほかには、毎年1月15日のガン・カモ調査、県などからの野鳥に関する委託調査などを行っています。今年はカワウの生態調査を受託する予定です。カワウのねぐらやコロニーに関する情報をお寄せください。

(部長 木村裕之)

■シロチドリ保護実行委員会■

特集2をご覧ください

(委員長 平井正志)

□運営事務局□

運営事務局は主に支部内の連絡、調整、事務、その他雑用を行っています。

<会員の皆さんへの案内>

◇案内等の作成から発送まで◇様々な問い合わせに答える

<各部、各委員会、各地区との連携>◇必要に応じ連絡を取る◇それぞれの要望を聞き、調整する<支部長への報告>現状を電話や文書で報告し、必要に応じて支持を受ける。

<行政との折衝>委託事業の事務処理◇行政へ支部としての要望を伝える

<その他>会議室の予約～会議資料の作成～会議の運営◇会員の把握◇マスコミ対応◇支部へ来た退会届・住所変更などを本部に連絡する◇探鳥会予定(保険資料)、決算報告、事業報告などを本部に送る◇このほかの雑用

皆さんが今まで以上に支部の運営に関心を持ち、もっともっと参加・協力してくださることを大いに期待しています。

(運営事務局長 木村京子)

■探鳥地マップ作成委員会■

三重野鳥の会の頃から、県内の探鳥地をまとめようと言う声があり、実際に作業を進めていました。正式に活動することとなりましたので、アーティストの委員も張り切っています。手始めに、この号からマップの一部を縮刷でお届けします。いずれはまとまった形にしたいと考えていますのでお楽しみに。

(委員長 今村 禎)

■木曾岬干拓地サクチュアリ化委員会■

三重と愛知の県境にある広大な干拓地を、「野鳥の楽園」にしようという委員会。活動の中心は、愛知県野鳥保護連絡協議会と合同で毎月行っている現地での探鳥会ですが、近々地元の町に要望書を出すことになっています。

なお、合同探鳥会の1994年度の結果をまとめましたので、次号で報告いたします。

(委員長 藤田克三)

○津地区○

三重県の中央に位置している地区であり、探鳥地としても安濃川河口、岩田池、安濃ダム等恵まれています。しかし、残念ながら活動している会員はあまり多くなく、特に中心になって活動している会員が少なく、地区としての活動はほとんど行われていません。

河芸町南部から津市にいたる丘陵地には、最近サイエンスシティー構想が出され、開発の手が伸びています。雑木林がまとまってかなり残されている貴重な場所であり、何らかの保護の手を打たなければなりません。また、河芸町の豊津浦海岸のシロチドリ繁殖地の保護には津地区の活動が期待されています。

今の所、地区としては有効な活動はされていませんが、先日の総会では地区の話し合いを持つことができたので、これを機会に地区活動の活発化を図っていきたくと考えています。

地区長さんはこんな人 平井正志さん

モジャモジャ頭がトレードマークの平井さんは、普段の態度からしてまじめ一方ですが、実は国家公務員にしてバイオの研究者というお堅い方なのです。また同時にすばらしい画家でもあり、支部報の表紙などで私たちを楽しませてくれています。

○松阪地区○

松阪といえば、およそ400年前に蒲生氏郷が滋賀県日野町からこの地に移り「松坂」と名付けました。松阪商人と古事記で有名な本居宣長、そして松阪肉がよく知られています。

野鳥の会松阪地区の範囲は、松阪市、飯南郡、多気郡、北牟婁郡、尾鷲市、熊野市、南牟婁郡と広範囲です。松阪地区には野鳥の観察に適した場所が数多くあります。私の好きなシギチは櫛田川河口部、愛宕川などで観察することができます。山の小鳥類は大台山系がいいでしょう。

海岸部は冬のカモ類、カモメ類が見られますし、夏にはオオヨシキリがけたたましい鳴き声を聞かせてくれます。

櫛田川流域にはカワセミ、ヤマセミ、カワガラスなどがよく見られます。サギ類のコロニーがあるので、サギ、カワウはごく普通に見られます。

松阪公園や篠田山は、旅鳥の中継地や冬鳥の越冬地になっていて、身近な観察地です。

地区長さんはこんなことを言ってます

谷本勢津雄さん

足が長くてかっこいい人と本人は自負していますが、私の愛する美しい妻？に言わせると、ちょっとどころではなく我侭で自分勝手な夫だとか。

○南勢地区○

南勢地区の範囲は伊勢市、鳥羽市、度会郡、志摩郡で、主に伊勢市を中心に活動しています。今村地区長をリーダーに、林、西村夫妻、橋本、世古口、そして大御所杉浦支部長が役員として会の仕事をしています。ご質問、ご要望など何でも気軽に声をかけてください。

南勢地区といえば、なんといっても秋のタカ渡り！志摩半島のあちこちで見ることができます。また、清流五十鈴川や伊勢神宮の自然、いつでもミサゴに会える宮川河口、オシドリがやってくる神路ダムなど、身近に魅力的な探鳥地があります。今年の企画にも、やすらぎ公園のタカ渡りや五十鈴公園の探鳥会を予定しています。また、8月には去年見つけたツバメの集団ねぐらの探鳥会があります。数万？のツバメはすごいよ。みんな来てね！

地区長さんはこんな人 今村禎さん

人呼んで「今村アート工房」のオーナー兼主任デザイナー。その巧みの技で、地区や支部の活動を豊かなものにしてきてくれています。南勢地区の探鳥会では、鳥合わせの時いつも彼の画集を使っており、すっかり名物になっています。

頼まれればいやと言えないその性格からすると、一生役員をしてくれると皆期待しています。



# バードウォッチング入門

今号から入門者のためのバードウォッチング講座を連載します。実録版と銘打って、今年度橋本企画部長が主催するバードウォッチング入門探鳥会と連動して進めていきますが、どうなりますことやら。さて、その第1回は――

1995年4月15日、天候は晴れ。ここは津市。今回のテーマは「町の鳥、水辺の鳥」です。

## 1 集合場所で

集合場所である江戸橋駅前に着くと、すでに何人が集まっています。挨拶もそこそこに、植え込みの下草で餌をとっているスズメを観察。リーダーが「野鳥観察カード」をくれました。

リーダー「このカードにスズメの様子を描いてみましょう。」

実際に絵に描こうとすると、スズメがなかなか複雑な模様をしていることが分かります。そして、大きさや姿、形、何をしているのかなど普段はあまり気にも留めないのに、こうするとよく「見る」ことに気づきました。

**ポイント**：まずよく見て描いてみよう。

ここで改めて挨拶。そして、マナーについて説明を受けます。

**ポイント**：マナーを守ってバードウォッチングを楽しもう。

- ①鳥を驚かせないように、派手な服装や行動を慎もう。
- ②道はずれて、植物を傷めないようにしましょう。
- ③自分の身は自分で守ろう。町中の探鳥では車にも気をつけよう。

## 2 川沿いへ出る

川の堤防に出てきました。今度はフィールドスコープも使ってじっくり観察します。

ここでは観察道具の使い方について確認しましょう。双眼鏡は目幅に合わせ、視度調節を忘れないようにします。見るときは、対象から視線をそらさずに、対象と目の間に双眼鏡をはさむようにするとよう教えてください。そうは言っても慣れないと難しいので、少し練習をした方がいいかもしれません。それから、フィールドスコープで見せてもらうときは、「自分で」ピントを合わさないといけません。人によって視度が違うからです。

**ポイント**：道具の使い方慣れておこう。

リーダー「ここではじっくりと見て、その特徴をカードに書いてみましょう。」それぞれがカードに、どこにいたか、何をしていたか、大きさや特徴を書いていきます。そして皆で見せ合い、発表しました。とても上手に絵を描いている人もみえます。

野鳥観察カード		場所		
どこに いたか		大きさ	目立った 特徴	何を していたか

年 月 日 天気: \_\_\_\_\_

記録者: \_\_\_\_\_

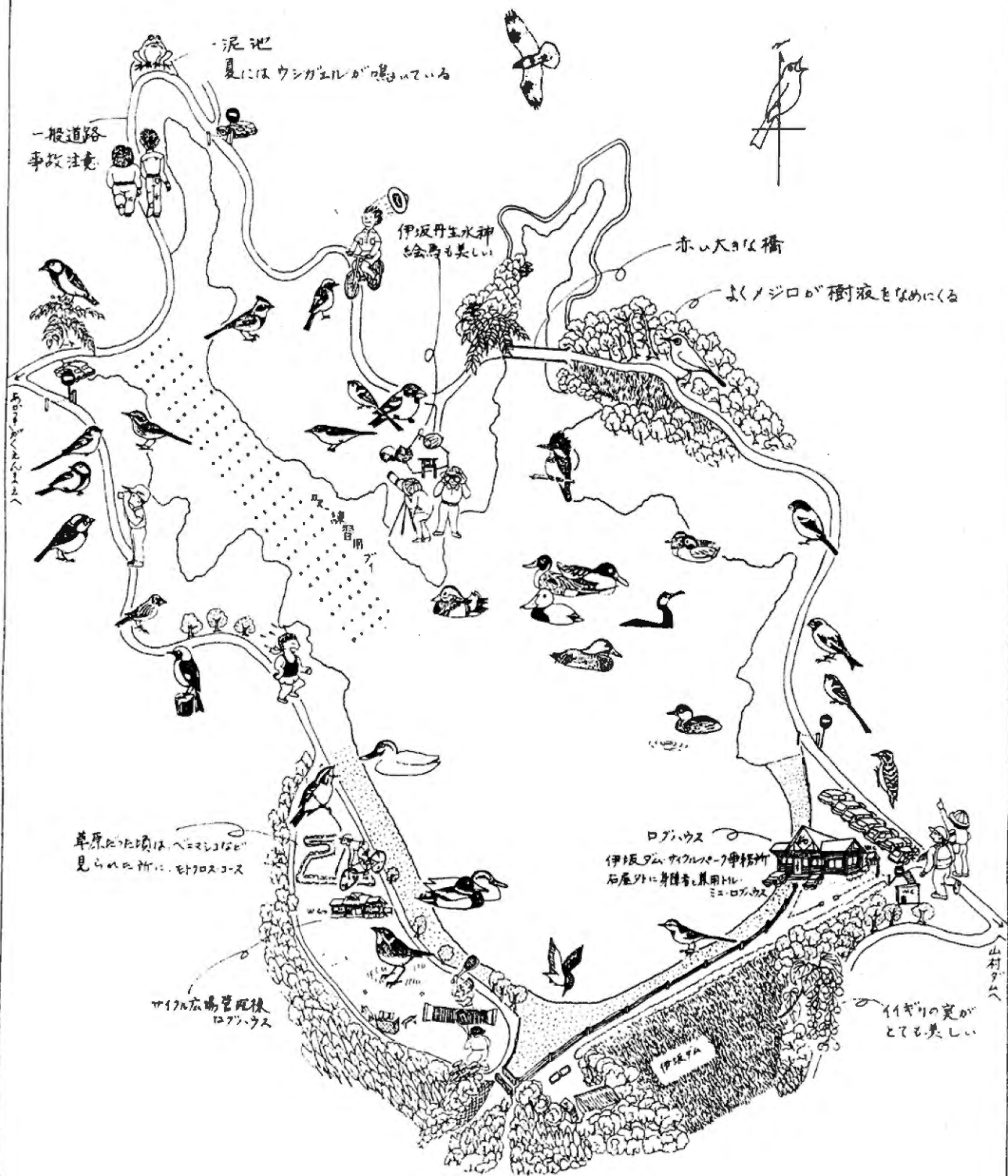
野鳥観察カード



# 探鳥マップ (1) 伊坂ダム

所在地 四日市市伊坂町

時期 10月上旬  
～ 3月下旬



# 伊坂ダム

1/25,000 地形図：『菟野』『桑名』  
三岐鉄道・平津駅下車徒歩約20分  
自家用車用駐車場あり

伊坂ダムは、野鳥の種類と数からいえば冬が一番で、ダム湖の水面には、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモなどがのんびりと羽を休めており、複雑に入り組んだダム湖を周遊できる道沿いには雑木林が広がっていて、シジュウカラ、エナガなどのせわしげな動きや、ウグイス・アオジが地鳴きしながら、かさこそと移動しているのを確認できるでしょう。時にはヤマセミやノスリに出会うこともあります。

伊坂ダムの東にある山村ダムにもぜひ行って見て下さい。山里の風情の残る民家や田畑を通り抜けると、山村ダムに着きます。ここは伊坂ダムとは、なぜかカモの種類が異なります。

## 【今までに観察された主な鳥】

カイツブリ	ミミカイツブリ	カンムリカイツブリ	カワウ	アマサギ	コサギ
アオサギ	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ
ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ
キンクロハジロ	スズガモ	ミコアイサ	トビ	チョウゲンボウ	ノスリ
ケリ	キジバト	ヤマセミ	カワセミ	コゲラ	キセキレイ
ハクセキレイ	セグロセキレイ	ビンズイ	ヒヨドリ	ジョウビタキ	モズ
シロハラ	ツグミ	ウグイス	エゾビタキ	エナガ	ヒガラ
ヤマガラ	シジュウカラ	メジロ	ホオジロ	ミヤマホオジロ	カシラダカ
ノジコ	アオジ	カワラヒワ	マヒワ	ベニマシコ	ウソ
シメ	スズメ	カケス	ハシブトガラス	ハシボソガラス	

☆ログハウスには、伊坂ダムサイクルパーク管理事務所（☎ 0593-64-1546 ・ 開館 9:00～16:00 ・ 金曜日定休 雨天臨時休館）、休憩所、自販機コーナー、トイレ（駐車場下にもある）があり、自転車の貸し出し、グラウンド及びテニスコートの使用許可業務などを行っています。

☆サイクリングコースは山村ダムへも続いています。

☆池の周りには4～5ヶ所ベンチも設けられ、休日は家族づれでにぎわっています。

☆貯水池での釣りや水泳は禁止されています。

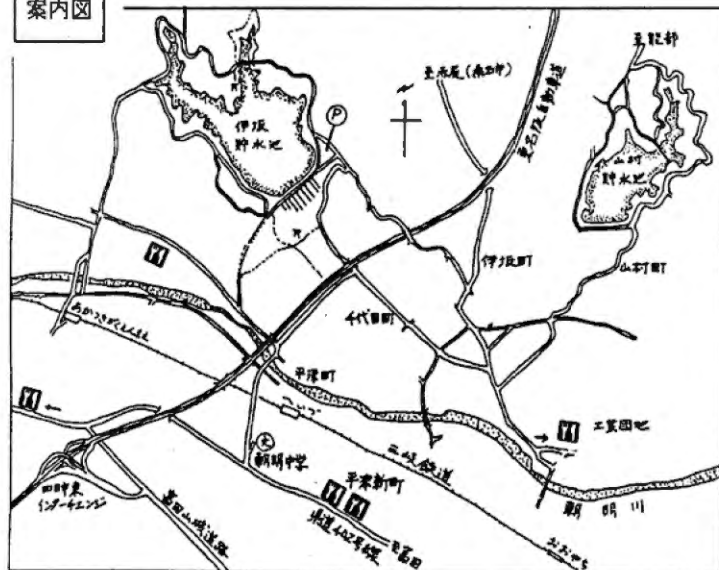
☆探鳥以外にも、春は桜見物に、夏は昆虫観察に、また、秋にはリンドウなど秋の花が、冬はムラサキシキブなど木の実も美しく、植物観察に好適です。自然観察会も2ヶ月に1度くらい行われています（ログハウスに予定表があります）。

☆食事、喫茶は徒歩ではやや遠く（車で5～6分、案内図参照）、お弁当持参をおすすめします。

☆駐車場は休日にはあふれることがあります。

☆近隣探鳥地：[山村ダム] 伊坂ダムより徒歩約25分、キンクロハジロとホシハジロが特に多く見られます。

## 案内図



## 【MEMO】

リーダー「これは、より詳しく観察するための手段です。上手下手は構いません。」

参加者の中では一番近くにいたカワウを観察した人が多かったようです。羽の模様について「小判状」と表現するなど、皆さんよく観察しています。すかさず、リーダーが嘴の特徴に気づいたかと、つつこみましたが、「観察カード」のおかげか皆気づいていました。

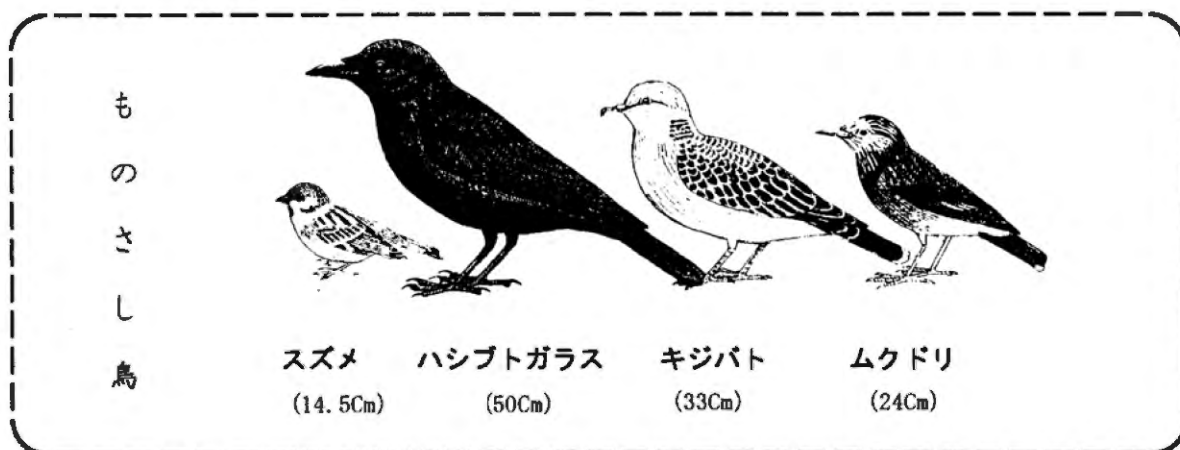
次に、リーダーが用意してくれたプリント（『フィールドガイド日本の野鳥』の中の“見分けのポイント”）を使って、様々な識別の方法を教えてください。

**ポイント**：まず「ものさし鳥」を覚えよう。

普段見なれた鳥と比べて、大きさや形を見るとわかりやすいということです。それから、各部分の形や色、姿勢、飛び方などをよく見て、それぞれの特徴から種名を知っていきます。それには、鳥の姿をじっくり見られる所で観察をするのがよいということです。その意味ではこうした水辺の鳥は入門者には好都合。じっとしていることが多いからです。それに、ふだんから暇があれば図鑑を眺めているというのも識別には役立つように思います。

堤防の上には車がよく通ります。お互いに声を掛け合って安全に留意しながら、次の観察場所へ進みました。

（次号に続きます）



こんなことがありました

ある探鳥会が終わってからのこと。幼稚園児とそのおかあさんが近づいてきました。

「この子があの鳥の名前を知りたいと言うものですから。」

川の上をユリカモメが飛んでいました。さっそく望遠鏡で見てもらおうとしましたが、小さい子どもにはなかなか難しい。堤防から落ちないようにリーダーとお母さんがつかまえています。望遠鏡を押さえている人もいます。それでも、何とか見ってもらって、鳥の名前も教えてあげました。すると、

「ユリカモメの“ユリ”はゆりかごの“ゆり”ですか。」

あまりのかわいい質問に一同声が出ませんでした。



今はシロチドリの繁殖期。でも、最近その数が減っています。そこで、シロチドリの保護について少し考えてみましょう。まずは保護委員会の活動報告から。



「三重県の鳥シロチドリを守ろう」

これまで三重県支部では、この言葉を合い言葉に、シロチドリシンポを行うなどして、保護活動に力を注いできました。昨年の春には、会員内外に向けてのアピールとしてステッカーを作りました。これは、アピールとともに保護区を作るための資金集めでもありました。

そして、秋にシロチドリ保護委員会が結成され、保護区のための具体的な行動に入りました。県内の重要な繁殖地である豊津浦（河芸町）と吉崎海岸（楠町）を候補地として、主に委員長の平井さんが中心となって県、地元漁協と交渉しました。それと平行して、許可が下りるという前提のもとに、橋本企画部長宅をお借りして看板を作りました。私たち素人集団にしては、なかなかの出来映えであったと自負しています。

まずは、豊津浦に許可がおりました。さっそく、3月21日保護区作りを行いました。新聞記事の呼びかけもあり、思いもかけず大勢の人が駆けつけてくれました。作業は、入り口に看板を立て、杭を打ち、漁協の方が提供して下さった古い漁網をロープがわりにして杭にくくりつけるというものでした。短時間で無事終了し、全員が浜に座っておにぎりをはおばりました。後日、「有意義な一日で、満足感で一杯でした」との感想もいただきました。この保護区作りに携わっていただいた方、本当にありがとうございました。

しかし、この保護区ができたから終わったのではなく、今からが始まりだと思っています。吉崎海岸ではまだ許可が下りていません。また、効果が上がったかどうかを継続して観察し、保護の輪がより大きくなるよう啓蒙が不可欠ではないかと思えます。

4月15日、豊津浦での平井さんの観察によると、2番いてまだ産卵には至っていないようです。近辺の人で観察報告していただけたらありがたいのですが……。

5月28日には豊津浦でシロチドリ観察会を予定しています。ステッカーもまだ在庫があります。これからも引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願ひします。

(シロチドリ保護委員会 西村 泉)



県の鳥シロチドリ=『朝日ララース世界動物百科』から

県の鳥シロチドリの繁殖を助けるため、日本野鳥の会県支部は二十一日、シロチドリの繁殖地の一つ、安芸郡河芸町の豊津浦海岸に車や人が入らないよう、看板を立てて網を張る。シロチドリは、なまこや干海に住む小型の鳥で、四月から六月にかけて地上に巣を作り繁殖する。最近では自然海岸が少な

河芸町の海岸網張り看板

あす、野鳥の会

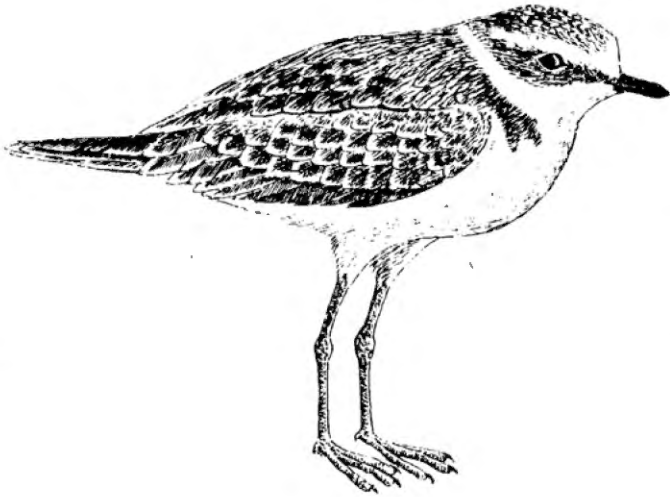
シロチドリ繁殖地です  
四駆や犬連れは  
立ち入りお断り

このため同支部は県の許可を得て、シロチドリの繁殖が確認されている同海岸の幅五百メートルの区間に立ち入らないよう、海岸の両側に五十メートルほどの網を張り、協力を呼びかける看板を立てる。

網は繁殖期の終わる七月に取り外す。また同支部は三重郡楠町の吉崎海岸にも同様の試みをする予定だ。今回効果があれば、今後毎年続けていくという。当日は、一般の参加者も募集している。午前十一時に河芸町上野の田中川河口南の堤防に集合する。問い合わせは、平井正志さん（〇五九二一八八一三〇七）まで。

私たちの活動を伝える新聞（3月20日付朝日）

では、シロチドリはどんな鳥で、どのような暮らしをしているのでしょうか。



シロチドリ (学) *Charadrius alexandrinus*  
(英) Kentish Plover

チドリ科の中では小さい方で、全長16~7センチとスズメより少し大きいぐらいです。背面は灰褐色で腹面は白く、上胸部に黒いバンド状の斑紋がありますが、腹部では切れています。足は黒色で、飛ぶとき翼に白条がでるのも特徴です。

足を交互に動かして歩きますが、歩くというよりは走るといった方が感じが良くできます。進んでは急に止まり、頭をピクリと上下させ、エサをついばんではまた進みます。エサはゴカイやカニ、小昆虫です。ピョイピョイとか、ピリッピリッという声を出します。

春先から巣作りが始まります。海岸や埋め立て地に、握りこぶしぐらいの大きさの浅い窪みに小石などを敷いた簡単な巣を作ります。卵はウズラの卵ぐらいの大きさで、黒っぽい斑紋があります。シロチドリは普通3個の卵を産み、抱卵期間は約4週間です。ヒナは孵ると数時間で走れるようになりますが、飛ぶまでには1カ月ほどかかります。

繁殖期(5~7月)が終わると、砂浜や干潟で群になって暮らします。

シロチドリはほぼ全国的に分布し、海岸の砂浜や干潟、川の下流・河口部の砂泥地で生活しています。そのため、内海に多く生息しており、三重県内では、主に伊勢湾沿岸で見られます。

しかし、こうした生息地や、繁殖に適した自然海岸は埋め立てによって急速に減少しており、さらに近年はオフロード車が乗り入れるなどということもあって、シロチドリの生息環境は悪化の一途をたどっています。現に、その生息数は減少し続けています。

三重県の鳥シロチドリを守ることは、私たち三重県支部にとって、きわめて重要で、かつ緊急の課題といえましょう。



財務部長のひとりごと

植原 恭

財務部とか長が付いているが、やっている仕事は会計であり、部員も必要としないのが現状である。

支部結成当時、財務部長を希望した理由は、先輩に当たる方々が相当の部所を担当し、会に貢献されるのに、私は年甲斐もなく何の役にも立てないことだった。それで、約16年前通信教育で受けた簿記が少しでも役立てば、自分の老化防止にもなると思ったからであった。また、財団法人になるからには、自治会やPTAのような大福帳形式では、所有する財産の内容及びその増減、剰余金の有無等が明確にできないと考えたからでもあった。口はばつたい口上を述べたが、計理士・税理士でもなく、“生兵法大けがのもと”にならないように、税理士に饅頭を持って教えを請うたり、銀行のOBの下へ泣き込んだりして仕訳を完成している。

複式簿記は、一つの取引を財産の増減面と、その性格の要素で捉えて記帳し、正確性をはかり、不正を防止（完全ではない）することを目的として西欧で発達した方法であるが、慣れないと理解し難いし、チェックも二重にしなければならないので面倒である。

ところで、支部となって担当者に有り難いことは、支部会費が振替で払い込まれることである。これによって領収書をいちいち書くことなく、帳簿記入も一行で済み、名簿管理も必要でなく、月に一度郵便局へ行って振替を引き出し、預金とする。後はカードで引き出し、各種の支払いにあてるだけである。

各四半期には、合計残高試算表を作成しているが、年度末には各部や委託事業担当者から報告が集まってくるので急に忙しくなる。チェック済みで送られてくる書類も、受ける方ではもう一度チェックしなければ自信がもてないので行方。特別会計は該当する帳簿に仕訳記入する。締め切るためには証拠書類を再度点検する。精算表を作成して財産の増減と収支が合致するか

計算する。合致すれば収支計算書と貸借対照表を作成して監査を待つこととなる。

ここまで書いてきて、総会の後、何故私だけが独りぼっちだったか悟った。収入の増加を図るでもなく、支出を少々制御するだけで、自然保護でも、愛鳥精神の普及でもない、単に金銭を数えているのでは、魅力のない仕事だからである。

¥ \$ ¥ \$ ¥

¢ £ ¢ £ ¢



【投稿募集】

「しろちどり」では会員の皆さんの投稿を募集しています。内容、形式は問いません。各地区編集部員等を通じてお送りください。待っています。

## ○真泥池（大山田村）探鳥会

・日 時：1994年11月27日（日）10:00～12:30

晴

- ・担 当：前澤昭彦
- ・参加者：45名
- ・観察種：34種

忘年会翌日の探鳥会で、リーダーは皆寝不足気味。でも、鳥が次々に出てくるといつのまにかシャキーとして……

最後まで二日酔いで苦しんだリーダーは誰だったでしょうか！

## ○安濃川河口（津市）探鳥会

・日 時：1995年1月29日（日）9:00～12:00

晴風やや強し

- ・担 当：平井正志
- ・参加者：31名
- ・観察種：34種

当日は快晴であった。江戸橋を出発したときは風も弱かったが、後に強くなった。鳥はややさみしく、カワウもカモ類もあまり多くなかった。ハマシギとミユビシギが同時に観察でき識別ができた。海上の沖合いではあったが3羽のアビが観察できた。

## ○真泥池（大山田村）探鳥会

・日 時：1995年2月19日（日）10:00～13:30 晴

- ・担 当：前澤昭彦
- ・参加者：50名
- ・観察種：35種

21回目の探鳥会。ニューファミリー階層が多数参加してくれました。真泥バードウォッチングにも新しい流れが出てきたかもしれません。最後にハイタカが大サービスしてくれました。

## ○ひもろぎの里（伊勢市）探鳥会

・日 時：1995年2月25日（土）9:00～13:30

うす曇

- ・担 当：世古口有司
- ・参加者：19名
- ・観察種：10種

ひもろぎの里から鼓ヶ岳(355.2m)へ登った。途中シロハラがタカにおそわれたと見られる跡を

調べたり、シカの食痕を見つけたりした。頂上では、伊勢市の緑が意外と少ないことを話し合った。

野鳥が不思議なくらい少なくさみしかった。どうしたのだろうか。

## ○三重愛知合同・木曾岬鍋田干拓地探鳥会

・日 時：1995年2月26日（日）10:00～12:00

曇時々晴

- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：28名
- ・観察種：40種

ワシ・タカ類のメッカ的鍋田木曾岬干拓地では、もうそろそろ春の渡りを前に鳥たちもなにがしか落ち着かない様子ですが、来年もまた飛来することを願いたいものです。

## ○亀山第1金曜探鳥会

・日 時：1995年3月3日（金）9:00～12:45 晴

- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：11名
- ・観察種：39種

昨日の下見からは、今日は期待できなかった。しかし歩き出すと止まってばかり。予定を1時間も超過した。

ノスリやオオタカの帆翔を首がおかしくなるほど見たのは、行程の4分の1ほどのところであった。もう今回はこれまでかと思ったが、カワラヒワ、カシラダカ、マヒワ、ミヤマホオジロの群に出会った。マヒワの群は切り通し道路の法面に生えたオオバヤシャブシの種を食べていて、近くで見ても遠くに飛び去ることはなかった。

## ○尾鷲探鳥会

・日 時：1995年3月5日（日）10:00～14:00 晴

- ・担 当：谷本勢津雄
- ・参加者：17名
- ・観察種：24種

以前北川さんがオジロワシ、オオワシを見た所（北牟婁郡海山町白浦）へ案内してもらって、そこで待っていたが、残念ながら現れませんでした。でも、ミサゴが何度も現れ、トビとの違いがはっきりわかりました。

## ○亀山水曜探鳥会

- ・日 時：1995年3月15日（水）9:20～12:15 快晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：16名
- ・観察種：27種

快晴の空にノスリの帆翔続いてオオタカの帆翔を目がおかしくなるほど観察しました。それから、モズやホオジロの♀♀が仲むつまじく寄り添っているところを楽しみました。

## ○借楽公園（津市）平日探鳥会

- ・日 時：1995年3月23日（木）10:00～11:50 曇
- ・担 当：谷阪善郎
- ・参加者：10名
- ・観察種：19種

公園の一番高いところで、電線にとまったカラヒワを見ていると、だれかがワシタカ目の鳥を見つけて皆さんに知らせてくれた。それはハヤブサで、帆翔しているところだった。

## ○松阪公園（松阪市）探鳥会

- ・日 時：1995年3月26日（日）9:30～11:00  
小雨のち曇
- ・担 当：中村洋子
- ・参加者：4名
- ・観察種：11種

3月下旬だというのに、珍しく西の山（堀坂山、観音岳）は雪化粧していてとてもきれいだった。鳥の種類は少なかったが、コゲラのドラミングも聞き姿もじっくり見ることができました。

## ○三重愛知合同・木曾岬鍋田干拓地探鳥会

- ・日 時：1995年3月26日（日）10:00～12:00  
雨のち晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：10名
- ・観察種：33種

三重県知事選に入り、木曾岬干拓地のサンクチュアリ化も本格的に取り組む時に入ったように思う。

## ○篠田山（松阪市）平日探鳥会

- ・日 時：1995年4月6日（木）9:30～12:00 晴
- ・担 当：宮田たつ
- ・参加者：11名
- ・観察種：21種

カラ類が混じった群として見られた。スズメが、一見何もないような葉（コノテヒバ）から次々と虫を捕って食べるのを見た。

## ○亀山第1金曜探鳥会

- ・日 時：1995年4月7日（金）9:00～12:45 晴
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：10名
- ・観察種：25種

見どころとして「田に来るコチドリを探す」を掲げたが、始めはハズレたように思ったが昨年いた田に来ていて、表題が当たったように思った。

## ○田丸城跡（度会郡玉城町）探鳥会

- ・日 時：1995年4月7日（金）9:30～11:30 晴
- ・担 当：西村 泉
- ・参加者：13名
- ・観察種：17種

雨上がりの風の強い日であったので鳥は少なかったが、満開のサクラにたくさんのヒヨドリが密を吸いに来ていました。新種？顔の黄色いヒヨドリ発見。実はツバキの花粉でした。

## ○白米城（松阪市）探鳥会

- ・日 時：1995年4月9日（日）10:00～12:00 雨
- ・担 当：杉井 隆
- ・参加者：11名
- ・観察種：13種

前日の桜日和がうそのように朝からどんより。天気予報も雨の確率30～40%とあいにくの日となりました。でも、定刻には地元一般の方も含め11名集まりましたので、小雨の中スタート。谷本さんや谷阪さんのうんちくのある説明を聞きながら、ウグイスやホオジロ、ピンズイの春のさえずりを楽しみました。でも、雨は結局やんでくれませんでした。



## ○亀山水曜探鳥会

・日時：1995年4月12日（水）9:20～12:00

雨のち晴

- ・担当：伊藤多紀子
- ・参加者：4名
- ・観察種：29種

雨上がりで風も強く肌寒い日でした。小鳥の心配をよそに、アオバト（4羽）から始まり、エナガ、コゲラの群をゆっくり観察ができました。終了直前、田んぼで落穂を食べているキジ雌雄に出会い、ゆっくり姿を見ることができました。

## ○バードウォッチング入門Ⅰ（津市）

・日時：1995年4月15日（土）9:30～11:30 晴

- ・担当：橋本祐子
- ・参加者：6名
- ・観察種：20種

駅前でスズメウォッチングの後、志登茂川沿いを歩く。数カ所のポイントにて観察カードにスケッチや観察したことを各自に記入してもらい、ゆっくりウォッチングを行った。

## 野鳥情報

## ◎多田弘一さん（一志郡嬉野町）

・シマアジ 1♂ 1995年4月4日 一志郡香良洲町高砂の養殖池

\*4月10日にはもういませんでした。

## ◎藤田克三さん（桑名市）

夏鳥の初認を報告します。

- |           |   |            |        |
|-----------|---|------------|--------|
| ・アマサギ     | 3 | 1995年4月14日 | 長島町の水田 |
| ・コアジサシ    | 6 | 1995年4月15日 | 吉崎海岸   |
| ・チュウシャクシギ | 1 | 同上         |        |
| ・コシアカツバメ  | 6 | 1995年4月23日 | 桑名市大山田 |

\*ここではいつも団地に営巣します。今年はいつもの年より遅い来訪でした。



## 北勢地区からの お知らせ

## ☆事務所集合日の変更について

従来、毎月第一土曜日午後に事務所で集会を開いてまいりましたが、95年5月から

毎月第二土曜日 午後1時から4時ごろまで

と変更いたします。どうぞお気軽にお立ち寄りください。どなたでも結構です。

## 事務局からのお知らせ

☆三重県支部では、探鳥会のリーダー研修会を7月9日に行う予定です。講師は本部普及部の環境教育コーディネイター・安西英明氏です。現在のリーダーの方だけでなく、今後リーダーをやってみたい、やれるという方は是非ご参加ください。お問い合わせは、

企画部長・橋本祐子さん( )

運営事務局・木村京子

☆日本野鳥の会の商品をお求めの際は、支部を通じてご購入ください。支部の財政が少し潤います。お問い合わせは、

事業担当・西村 泉さん( )

☆三重県支部の副支部長・高橋松人さん執筆、三重県緑化推進課発行の「三重の自然誌No. 2 オオタカ」を県からいただきました。探鳥会等でご希望の方にお渡ししますので、お楽しみに。

## 編集部からお知らせ

本年度編集部では、支部報「しろちどり」とともに「別冊」の発行を計画しています。エッセイや詩歌、研究論文などバラエティに富んだものにしたいと考えていますので、ご意見やご希望をお寄せください。また、その誌名を募集していますのでふるってご応募ください。

各地区編集部員は次の通りです。

【北勢】加藤征甫 【伊賀】黒川昌吉 【津】橋本富三 【松阪】谷本勢津雄 【南勢】吉居瑞穂

## 編集後記

町内のクスの木に毎年アオバズクがやってきます。今年もそろそろ思っていたら、木の近くに住む人が来ていますよとわざわざ教えてくれました。今から7月の巣立ちを楽しみにしています。

今年度から編集を担当することになりました。なにぶん不慣れですので、ご不満もありません。ご叱責、ご教示のほどよろしくお願い申し上げます。(せ)

しろちどり第9号

1995年5月発行

表紙絵 今村 禎 題字 濱田 稔 カット 平井正志、今村 禎

編集 世古口有司 〒

発行者 (財)日本野鳥の会三重県支部

〒516 三重県伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

《事務局》〒

木村京子方

印刷 館 印刷 〒510-13 三重県三重郡菰野町田口1903-3